

12路線を結ぶ 「うちな」(沖縄)の翼

創立当時は、わずか3機の小型プロペラ機で、那覇⇨宮古、那覇⇨石垣線など県内6路線に就航したJTA。現在は737-800型機への機材更新を進めながら、737型機12機で沖縄県内3路線と、沖縄と県外6都市(東京・名古屋・小松・大阪・岡山・福岡)を結ぶ9路線の合計12路線を1日約70便運航し、年間約270万人のお客さまにご利用いただいています。創立から堅持している安全運航を守り抜くとともに、安定的な事業運営に努め、JALグループの沖縄の翼「うちな」の翼として、地域の発展に貢献しています。

地域色あふれた機内演出で 沖縄ファンを拡大

JTAではJALグループならではの高品質なサービスに加え、ご搭乗の瞬間から沖縄を感じていただけるような機内演出にも努めています。例えば、機内インテリアには沖縄の伝統的な染色技法の一つである「紅型」を採用。機内オーディオやビデオでは沖縄出身のアーティストの唄や映像を流し、機内誌「Coriway」では島々の魅力や旬の情報を紹介しています。さらに機内販売で沖縄の特産品を扱うほか、客室、

会や、各離島で開催されるマラソン大会に協賛するなど、地域とともにスポーツコンベンションの振興に貢献。現在ではそれぞれが地域を代表するイベントに成長しています。

さらに2月・3月の沖縄といえば、県内各地でプロ野球のキャンプが行われる時期。JTAでは、石垣島と久米島で行われるキャンプに協賛などをするともに、応援ツアーを募り、人気を博しています。また、プロ野球のキャンプ期間の後に県外の大学や高校の野球合宿の誘致を行い、合わせて県内校との交流試合を設定するなど、野球を通じた地域振興にもつなげています。

地域の未来を担う人財を育成

沖縄県の将来を担う子どもたちの健全な育成を支援することも、JTAの大切な取り組みの一つです。離島の小学生を対象に1981年よりグループ会社の琉球エアークommunicator(RAC)とともに実施している「JTA・RACあおぞら図画コンクール」は、メセナアワード2016の特別賞・文化庁長官賞を受賞しました。これは地域と連携して離島の子どもたちの育成に努め、絵画を通して離島の魅力を世界中に発信することで、継続的に地域振興に貢献していることが評価されたものです。



「さくらジンベエ」(ジンベエジェット2号機)



沖縄美ら海水族館とタイアップした塗装機「ジンベエジェット」



あおぞら図画コンクール最優秀賞作品



宮古島でのトライアスロン大会



紅型ヘッドレストカバー



旧石垣空港の最終便(南西航空の復刻塗装機、2013年)



初就航時のコンペアCV-240型機(1967年)

地域に根差した 航空会社を目指して

日本トランスオーシャン航空創立50周年

日本トランスオーシャン航空(JTA)は、まだ米軍統治下時代であった1967年7月1日に、JALのグループ会社・南西航空として誕生しました。島々が点在する沖縄県内の航空輸送を担うJALグループの一員として、50年を歩んできたJTAの取り組みをご紹介します。



地域と
ともに

またJTAでは、社員が自らの仕事を紹介する航空教室や整備工場見学を積極的に開催し、年間で約1500名の子どもたちを受け入れてきました。2016年より、経済産業省の産学連携サービス経営人材育成事業である琉球大学のプロジェクトに講師や若手社員を派遣して参画するなど、沖縄の中核産業・観光産業などの経営を担う人財の育成にも貢献しています。

地域に愛される企業として 新しい社会価値の創造に挑戦

JTAは女性の活躍、年代やキャリアを問わず働きやすい環境づくり、障がいのある方々の雇用促進、LGBT(※)への理解と受容の促進など、これからの時代にふさわしい社会価値の創造にも取り組んでいます。

2016年10月には、価値観の多様化が進む社会に貢献できる風土の醸成を目指して、「JTAダイバーシティ&インクルージョン方針」を制定。LGBTに関する企業の具体的な取り組みを評価する「PRIDE指標」で最高位のゴールドにJALとともに認定されるなど、社内の意識改革が進んでいます。また、奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島の世界自然遺産登録推進活動への支援や環境保全の体験(希少動物保護のための除草活動

、乗務員の夏の制服にかりゆしウェア、機内アナウンスに島の方言「島くとうば」を取り入れるなど、地域色あふれる「うちな」(うちな)の心で沖縄ファンの拡大に努めています。

スポーツコンベンション協賛で 地域振興に貢献

沖縄県は、自然が美しく豊かで、気候が一年を通して温暖という、スポーツをするうえでとても恵まれた環境です。JTAではその地の利を生かすべく、県内各地で開催されるさまざまなスポーツイベントに協賛し、スポーツと観光を融合したスポーツツーリズムに力を入れることで、新たな需要の開拓に取り組んできました。

例えば、宮古島で毎年4月に開催される全日本トライアスロン宮古島大会。JALとともに第1回からオフィシャルエアラインとして大会を支援し続け、2017年で33回目を数えます。この大会は、宮古島の大自然と、選手とギャラリートの一体感が人々の心を魅了し、リピーター率が高いことでも知られています。社員もボランティアでエイドステーションを設置するなど、全社一丸となった活動を通じて大会の運営を支えてきました。

このほか石垣島でのトライアスロン大などコンテンツ作りといった、さまざまな形で新しい社会価値の創造にチャレンジしながら、今後も地域社会にとって役立つ存在となれるよう努めています。

JALグループの沖縄の翼として誕生して50年。JTAはこれまで育てていただいたお客さま、地域の皆さまへの感謝を胸に、世界で一番お客さまに選ばれ、愛される航空会社を目指します。そして、さらなる進歩・発展への挑戦を続けることで企業価値を高め、ひいては地域創生・地域社会の発展にもつなげていきます。

※ Lesbian/レズビアン(女性同性愛者)、Gay/ゲイ(男性同性愛者)、Bisexual/バイセクシュアル(両性愛者)、Transgender/トランスジェンダー(生物学的な性別と違う性別で生きたい人)の頭文字で、性的少数者の総称。

